

学びと出会い1周年

2023.5.2
洛外新報

宇治市 伊勢田町 ウトロ口平和祈念館で記念式典



平和祈念館前で記念撮影に収まった参加者たち

宇治市伊勢田町ウトロの「ウトロ口平和祈念館」開館1周年を記念したイベントが先月30日に開かれた。関係者と来賓ら約150人が参加し、節目を祝った。ウトロ地区は、第二次

次大戦中に京都飛行場建設のため動員された在日朝鮮人たちが暮らしてきた集落。差別的な扱いを受けながらも、苦難に耐えて生活を守ってきた在日朝鮮人の歴史を学ぶ資料



ウトロ農業隊の皆さんによる演奏



挨拶した田川館長

が同館に納められている。午前10時からの式典は「ウトロ農業隊」の演奏でオープニング。田川明子館長が挨拶に立ち「南も北も、朝鮮人も日本人もなく、ウトロと共にありたいと考えて下さった人々の集大成がここにある。出会い、交流し、感じるところをお土産として持ち帰って」と呼び掛けた。来賓を代表し、金亨駿(キムヒョンジュン)駐大阪韓国総領事が「ウトロの歴史を覚え、人権・平和といった普遍的な価値を守ろうとした多くの人々の思いが成し遂げた成果だと思う」と祝辞を述べた。事業報告の後、同館屋上の太陽光パネルによる「おひさまプロジェクト」の紹介があった。ウトロ民間記念財団と、市民再エネプロジェクトin京都が協力して1月に設置したもので、環境に配慮した施設づくりを目指すという。

この日は、新たな企画展「ウトロの女性たち」や、城陽高校の生徒が制作したミニチュア模型の展示もスタート。午後からは野外ライプや、地球環境を考える座談会などが開かれた。同館は昨年4月30日にオープン。韓国在外同胞財団が2019年から建設資金として約20億ウォンを支援した。この1年間で自治体や企業など約300件の団体研修を受け入れ、1万3000人以上が来場。130人のボランティアスタッフが運営に協力している。